

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合いましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



2022.9.12-18

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合いましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

12日 月曜

創世記



22:15 【主】の使いは再び天からアブラハムを呼んで、
22:16 こう言われた。「わたしは自分にかけて誓う——【主】のことば——。あなたがこれを行い、自分の子、自分のひとり子を惜しまなかつたので、
22:17 確かにわたしは、あなたを大いに祝福し、あなたの子孫を、空の星、海辺の砂のように大いに増やす。あなたの子孫は敵の門を勝ち取る。
22:18 あなたの子孫によって、地のすべての国々は祝福を受けるようになる。あなたが、わたしの声に聞き従ったからである。」
22:19 アブラハムは若い者たちのところに戻った。彼らは立って、一緒にベエル・シェバに行った。こうしてアブラハムはベエル・シェバに住んだ。
22:20 これらの出来事の後、アブラハムに次のことが伝えられた。「ミルカもまた、あなたの兄弟ナホルに子を産みました。
22:21 長男ウツ、その弟ブズ、アラムの父ケムエル、
22:22 ケセデ、ハゾ、ピルダシュ、イデラフ、それにベトエルです。」
22:23 このベトエルはリベカを生んだ。ミルカはこれら八人を、アブラハムの兄弟ナホルに産んだのである。
22:24 レウマというナホルの側女もまた、テバフ、ガハム、タハシュ、マアカを産んだ。

主はアブラハムに大いなる祝福の約束を与えてくださいました。それもご自分にかけて誓うという確かなものです。神様はご自分以上の存在がないので、上の權威にかけて誓うということがありません。ご

自分の權威にかけて誓うということが最高の確かさなのです。

それもアブラハムの信仰の従いがあればこそです。主御自身の喜びも伝わってくるようです。私たちは主の憐れみによって生かされてはいますが、それだけでなく、主に喜ばれ祝福をいただくものでもありたいです。

またここでアブラハムの親戚に子が与えられたことも記述がありますが、上のことと無関係ではありません。イサクの今後、そしてアブラハムの子孫に関係してくることです。イサクはここにあるリベカと結婚したのです。神様の祝福は現実を動かすものであり、またすでに始まっていることを知りましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





23:1 サラの生涯、サラが生きた年数は百二十七年であった。

23:2 サラはカナンの地のキルヤテ・アルバ、すなわちヘブロンで死んだ。アブラハムは来て、サラのために悼み悲しみ、泣いた。

23:3 アブラハムは、その亡き人のそばから立ち上がり、ヒッタイト人たちに話した。

23:4 「私は、あなたがたのところに在住している寄留者ですが、あなたがたのところで私有の墓地を私に譲っていただきたい。そうすれば、死んだ者を私のところから移して、葬ることができます。」

23:5 ヒッタイト人たちはアブラハムに答えた。

23:6 「ご主人、私たちの言うことをお聞き入れください。あなたは、私たちの間にあって神のつかさです。私たちの最上の墓地に、亡くなった方を葬ってください。私たちの中にはだれ一人、亡くなった方を葬る墓地をあなたに差し出さない者はおりません。」

23:7 そこで、アブラハムは立って、その土地の人々、ヒッタイト人に礼をして、

23:8 彼らに告げた。「死んだ者を私のところから移して葬ることが、あなたがたの心になうのであれば、私の言うことをお聞き入れください、ツォハルの子エフロンに頼んでいただきたいのです。」

23:9 彼の畑地の端にある、彼の所有のマクペラの洞穴を譲っていただけるようにです。十分な価の銀と引き換えに、あなたがたの間での私の所有の墓地として、譲っていただけるようにしてください。」

23:10 エフロンはヒッタイト人たちの間に座っていた。ヒッタイト人のエフロンは、そ

の町の門に入るヒッタイト人たちが聞いているところで、アブラハムに答えた。

23:11 「いいえ、ご主人。どうか、私の言うことをお聞き入れください。あの畑地をあなたに差し上げます。そこにある洞穴も差し上げます。私の民の者たちの前で、それをあなたに差し上げます。亡くなった方を葬ってください。」

23:12 アブラハムは、その土地の人々に礼をし、

23:13 その土地の人々の聞いているところで、エフロンに告げた。「もしあなたが許してくださるなら、私の言うことをお聞き入れください。畑地の価の銀をお支払いします。どうか私から受け取ってください。そうすれば、死んだ者をそこに葬ることが出来ます。」

23:14 エフロンはアブラハムに答えた。

23:15 「では、ご主人、私の言うことをお聞き入れください。銀四百シェケルの土地、それなら、私とあなたの間では、何ほどのこともないでしょう。どうぞ、亡くなった方を葬ってください。」

23:16 アブラハムはエフロンの申し出を聞き入れた。アブラハムはエフロンに、彼がヒッタイト人たちの聞いているところでつけた価の銀を支払った。それは商人の間で通用する銀四百シェケルであった。

23:17 こうして、マムレに面するマクペラにあるエフロンの畑地、すなわち、その畑と、畑地にある洞穴と、畑地の周りの境界線内にあるすべての木は、

23:18 その町の門に入るすべてのヒッタイト人たちの目の前で、アブラハムの所有となった。

23:19 その後アブラハムは、マムレに面するマクペラの畑地の洞穴に、妻サラを葬った。マムレはヘブロンにあり、カナンの地にある。

23:20 こうして、この畑地とその中にある洞穴は、ヒッタイト人たちの手から離れて、私有の墓地としてアブラハムの所有となった。

どんなに主の栄光が豊かな人生であっても必ず地上の死がやってきます。信仰者であっても愛する者の死は悲しいものです。

やがて永遠の御国で住む私たちクリスチャンですが、そのひな型として見ると、この箇所の意味が良くわかります。ヘテ人の土地は後に神様がアブラハムの子孫であるイスラエルに与えると約束なさった地で、それはやがてクリスチャンに与えられる永遠の天国のひな型です。イスラエルは先祖アブラハムの地に帰るのです。そのように私たちも、天国すなわち神の土地に帰るということです。

またアブラハムは無償提供されるという土地を、自らお金を払って買い取りました。これは完全に自分の所有とすることによって、その後異邦人との馴れ合いを避けるためです。神を信じない人とは生き方を区別する必要がありますが、それは誠実な姿勢によるべきです。

さらにアブラハムは銀四百シェケルという大金で買いましたが、神の国という救いはどんな犠牲を払ってでも手に入れるべき、すばらしい価値のあるものということです。

- ① 神の愛のこころは？ (信仰のあり方、希望の約束、心の満たしなど)
- ② どんな思いになりましたか？ (感情や願いなど)
- ③ 生き方にどう適用しますか？ (あなたの中の部分を主は扱おうとしておられますか)
- ④ この世にあって何を実践しますか？



24:1 アブラハムは年を重ねて、老人になっていた。【主】は、あらゆる面でアブラハムを祝福しておられた。

24:2 アブラハムは、自分の全財産を管理している、家の最年長のしもべに、こう言った。「あなたの手を私のももの下に入れてくれ。」

24:3 私はあなたに、天の神、地の神である【主】にかけて誓わせる。私はカナン人の間に住んではいるが、あなたは、その娘たちの中から、私の息子の妻を迎えてはならない。24:4 あなたは、私の国、私の親族のところに行って、私の息子イサクに妻を迎えなさい。」

24:5 しもべは彼に言った。「もしかしたら、その娘さんが、私についてこの地に来ようとしないかもしれません。その場合、ご子息をあなたの出身地へ連れて戻らなければなりませんか。」

24:6 アブラハムは彼に言った。「気をつけて、息子をそこへ連れて戻ることのないようにしなさい。」

24:7 天の神、【主】は、私の父の家、私の親族の地から私を連れ出し、私に約束して、『あなたの子孫にこの地を与える』と誓われた。その方が、あなたの前に御使いを遣わされるのだ。あなたは、そこから私の息子に妻を迎えなさい。

24:8 もし、その娘があなたについて来ようとしないなら、あなたはこの、私との誓いから解かれる。ただ、私の息子をそこに連れて戻ることだけはしてはならない。」

24:9 それではしもべは、主人であるアブラハムのももの下に自分の手を入れ、このことにつ

いて彼に誓った。

24:10 しもべは主人のらくだの中から十頭を連れて出かけた。主人のあらゆる良い品々をその手に携えていた。彼は立って、アラム・ナハライムのナホルの町へ行った。24:11 彼は夕暮れ時、水を汲む女たちが出て来るころ、町の外の井戸のそばにらくだを伏させた。

24:12 そうして言った。「私の主人アブラハムの神、【主】よ。どうか今日、私のために取り計らい、私の主人アブラハムに恵みを施してください。」

24:13 ご覧ください。私は泉のそばに立っています。この町の人々の娘たちが、水を汲みに出て来るでしょう。

24:14 私が娘に、『どうか、あなたの水がめを傾けて、私に飲ませてください』と言い、その娘が、『お飲みください。あなたのらくだにも水を飲ませましょう』と言ったなら、その娘こそ、あなたが、あなたのしもべイサクのために定めておられた人です。このことで、あなたが私の主人に恵みを施されたことを、私ができるようになります。」 24:10 しもべは主人のらくだの中から十頭を連れて出かけた。主人のあらゆる良い品々をその手に携えていた。彼は立って、アラム・ナハライムのナホルの町へ行った。

24:11 彼は夕暮れ時、水を汲む女たちが出て来るころ、町の外の井戸のそばにらくだを伏させた。

24:12 そうして言った。「私の主人アブラハムの神、【主】よ。どうか今日、私のために取り計らい、私の主人アブラハムに恵みを施してください。」

24:13 ご覧ください。私は泉のそばに立っています。この町の人々の娘たちが、水を汲みに出て来るでしょう。

24:14 私が娘に、『どうか、あなたの水がめを傾けて、私に飲ませてください』と言い、その娘が、『お飲みください。あなたのらくだにも水を飲ませましょう』と言ったなら、その娘こそ、あなたが、あなたのしもべイサクのために定めておられた人です。このことで、あなたが私の主人に恵みを施されたことを、私ができるようになります。」

御心を聞いて踏み出さなければならぬときがあります。イサクは結婚適齢期で、アブラハムは「そのうち…」とは言えない状況でした。ここに祈りのモデルがあります。

第一に、アブラハムは一番重要なことを求めています。理想の条件をいくつも挙げて、足りないところを見てしまえば、決断できないというものも多いのですが、彼は信仰の子孫という一番のものだけを求めているのです。（その結果神様は他の面でも良い花嫁を与えてくださいました）

第二に、アブラハムとしもべという共同体の協力がありました。しもべはアブラハムから頼まれたのですが、彼の後の祈りからも分かるように、彼はそれを神様の御心として受け取ったのです。

第三に、御心を知る祈りです。ただ「...を与えてください」という祈りを繰り返すなら、「ことは数が多ければ聞かれるというのではない」という主イエスのことばを思い出す必要があります。私たちには聖書がありますからみ言葉が与えられます。

第四に、神のそれまでの導きを心に留めて忘れないことです。7節の証しのように。

①神のみこころは？②どんな思いになりましたか？③生き方にどう適用しますか？④何を実践しますか？

24:15 しもべがまだ言い終わらないうちに、見よ、リベカが水がめを肩に載せて出て来た。リベカはミルカの子ベトエルの娘で、ミルカはアブラハムの兄弟ナホルの妻であった。

24:16 この娘は非常に美しく、処女で、男が触れたことがなかった。彼女は泉に下りて行き、水がめを満たして上がって来た。

24:17 しもべは彼女の方に走って行って、言った。「どうか、あなたの水がめから、水を少し飲ませてください。」

24:18 すると彼女は、「どうぞ、お飲みください。ご主人様」と言って、すばやくその手に水がめを取り降ろし、彼に飲ませた。

24:19 水を飲ませ終わると、彼女は、「あなたのらくだにも、飲み終わるまで、水を汲みましよう」と言った。

24:20 彼女は急いで水がめの水を水ぶねにあげ、水を汲みに、再び井戸まで走って行き、すべてのらくだのために水を汲んだ。

24:21 この人は、【主】が自分の旅を成功させてくださったかどうかを知ろうと、黙って彼女を見つめていた。

24:22 らくだが水を飲み終わったとき、その人は、重さ一ペカの金の飾り輪と、彼女の腕のために、重さ十シケルの二つの金の腕輪を取り、

24:23 尋ねた。「あなたは、どなたの娘さんですか。どうか私に教えてください。あなたの父上の家には、私どもが泊めていただける場所がありますでしょうか。」

24:24 彼女は答えた。「私は、ミルカがナホルに産んだ子ベトエルの娘です。」

24:25 また言った。「藁も飼料も、私たち

のところには、たくさんあります。それに、お泊まりになる場所も。」

24:26 その人は、ひざまずき、【主】を礼拝して、

24:27 こう言った。「私の主人アブラハムの神、【主】がほめたたえられますように。主は、私の主人に対する恵みとまことをお捨てになりませんでした。【主】は道中、この私を導いてくださいました。主人の兄弟の家にも。」

24:28 その娘は走って行って、母の家の者に、これらのごとを告げた。

24:29 リベカには兄がいて、その名をラバンといった。ラバンは外へ出て、泉のそばにいたその人のもとへ走って行った。

24:30 彼は、飾り輪と、妹の腕にある腕輪を見、また、「あの人が私にこう言われました」と言った妹リベカのことばを聞くとすぐに、その人のもとへ行った。すると見よ、その人は泉のそば、らくだのそばに立っていた。

24:31 そこでラバンは言った。「どうぞ、おいでください。【主】に祝福された方。なぜ外に立っておられるのですか。私は、お宿と、らくだのための場所を用意しております。」

24:32 それで、その人は家の中に入った。らくだの荷が解かれ、らくだに藁と飼料が与えられ、彼の足と、一緒にいた従者たちの足を洗う水も与えられた。

生まれ故郷から妻を迎えるようにとの、主人アブラハムの指示でしたが、詳細はしもべに委ねられていました。彼は自分に任せられたとあって、一存で決めたのではなく、あくまでも主の御心を

求めました。

祈り方というものには色々あります。自分で結果を決めて、または「御心はこうだ」と初めから決めて、そうならないのは信仰が足りないからだと思う祈り方。御心を教えてくださいと求め、御心だと確信するために、何かの現象を求める祈り方。そして御心を求め、その確信のために御ことばをいただく祈り方などです。

もしも自分で決めてしまっているなら、それに気付くためには共同体があります。しもべは信仰の主人に従いました。また現象に根拠を置くのは不確実です。今私たちには聖書があります。

しもべは自分の祈りが答えられたましたが、だからといって高慢にならずに、あくまでも、生まれ故郷から迎えよとのアブラハムの方針に従って、リベカの出身を尋ねました。主に用いられる人はこのような、謙遜な祈りの人です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



24:33 それから、彼の前に食事が出されたが、彼は「私の用件を話すまでは、いただきません」と言った。「お話しください」と言われて、

24:34 彼は言った。「私はアブラハムのしもべです。」

24:35 【主】は私の主人を大いに祝福されましたので、主人は富んでおります。主は主人に、羊や牛、銀や金、男女の奴隷、らくだやろばをお与えになりました。

24:36 私の主人の妻サラは、年をとってから主人に男の子を産み、主人はこの子に自分の全財産を譲っておられます。

24:37 私の主人は、こう言って、私に誓わせました。『私が住んでいるこの地のカナンの娘たちの中から、私の息子の妻を迎えてはならない。』

24:38 あなたは、私の父の家、私の親族のところへ行って、私の息子に妻を迎えなさい。』

24:39 そこで私は主人に申しました。『もしかしたら、その娘さんは私について来ないかもしれません。』

24:40 すると主人は答えました。『私は主の前に歩んできた。その【主】が御使いをあなたと一緒に遣わし、あなたの旅を成功させてくださる。あなたは、私の親族、私の父の家から、私の息子に妻を迎えなさい。』

24:41 次のようなときは、あなたは私との誓いから解かれる。あなたが私の親族のところに行ったら、もし彼らがあなたに娘を与えないなら、そのとき、あなたは私との誓いから解かれる。』

24:42 今日、私は泉のそばに来て言いました。

『私の主人アブラハムの神、【主】よ。私がかここで来た旅を、もしあなたが成功させてくださるのなら——。』

24:43 ご覧ください。私は泉のそばに立っています。若い娘が水を汲みに出て来たなら、私は「あなたの水がめから少し水を飲ませてください」と言います。

24:44 その人が私に、「どうぞ、お飲みください。あなたのらくだにも水を汲みましょ」と言ったなら、その娘さんこそ、

【主】が私の主人の息子のために定められた方です。』

24:45 私が心の中で言い終わらないうちに、なんと、リベカさんが水がめを肩に載せて出て来たのです。そして、泉に下りて行き、水を汲みました。それで私が『どうか水を飲ませてください』と言うと、

24:46 急いで水がめを肩から降ろし、『お飲みください。あなたのらくだにも水を飲ませましょう』と言われたので、私は飲みました。らくだにも水を飲ませてくださいました。

24:47 私が尋ねて、『あなたは、どなたの娘さんですか』と言いますと、『ミルカがナホルに産んだ子ベトエルの娘です』と答えました。そこで私は、彼女の鼻に飾り輪をつけ、彼女の腕に腕輪をはめました。

24:48 そして私はひざまずき、【主】を礼拝し、私の主人アブラハムの神、【主】をほめたたえました。主は、私の主人の親族の娘さんを主人の息子に迎えるために、私を確かな道に導いてくださったのです。

24:49 それで今、あなたがたが私の主人に恵みとまことを施してくださるのなら、私にそう言ってください。もしそうでなければ、

そうでないと私に言ってください。それによって、私は右か左に向かうことになります。』

24:50 ラバンとベトエルは答えた。

「【主】からこのことが出たのですから、私たちはあなたに良い悪しを言うことはできません。」

24:51 ご覧ください。リベカはあなたの前におります。どうぞお連れください。

【主】が言われたとおりに、あなたのご主人の息子さんの妻となりますように。」

24:52 アブラハムのしもべは、彼らのことばを聞くやいなや、地にひれ伏して

【主】を礼拝した。

24:53 そして、このしもべは銀や金の品物や衣装を取り出して、リベカに与えた。また、彼女の兄や母にも貴重な品々を贈った。

しもべは自分の使命が果たせるまでは、くつろぐことなく主のわざを求めました。その語る内容から学ぶことがいろいろあります。

自分は大きな家に属し大役を担っているが、自慢や苦勞話はいっさいなく、ただ神の祝福だけを語ります。また主人の意向と、それに忠実に従ったこと。さらには主が祈りに答えて確信を与えてくださったことなどです。主のわざを勧めるためには証しが必要ですが、自慢や自己解釈からではなく、主そのものの証しが良いのです。

- ① 神のみこころは？
- ② どんな思いになりましたか？
- ③ 生き方にどう適用しますか？
- ④ この世にあって何を実践しますか？





24:54 このしもべと、ともにいた従者たちは、食べたり飲んだりして、そこに泊まった。朝になって彼らが起きると、そのしもべは「私の主人のところへ帰らせてください」と言った。

24:55 彼女の兄と母は、「娘をしばらく、十日間ほど私たちのもとにとどまらせて、その後で行かせるようにしたいのですが」と言った。

24:56 しもべは彼らに、「私が遅れないようにしてください。【主】が私の旅を成功させてくださったのですから。主人のところへ行けるように、私を帰らせてください」と言った。

24:57 彼らは答えた。「娘を呼び寄せて、娘の言うことを聞いてみましょう。」

24:58 彼らはリベカを呼び寄せて、「この人と一緒に行くか」と尋ねた。すると彼女は「はい、行きます」と答えた。

24:59 そこで彼らは、妹リベカとその乳母を、アブラハムのしもべとその従者たちと一緒に送り出した。

24:60 彼らはリベカを祝福して言った。「われらの妹よ、あなたは幾千万にも増えるように。あなたの子孫は敵の門を勝ち取るように。」

24:61 リベカとその侍女たちは立ち上がり、らくだに乗って、その人の後について行った。こうして、しもべはリベカを連れ帰った。

24:62 一方イサクは、ベエル・ラハイ・ロイ地方から帰って来ていた。彼はネゲブの地に住んでいたのであった。

24:63 イサクは夕暮れ近く、野に散歩に出か

けた。彼が目を上げて見ると、ちょうど、らくだが近づいて来ていた。

24:64 リベカも目を上げ、イサクを見ると、らくだから降り、

24:65 しもべに尋ねた。「野を歩いて私たちを迎えに来る、あの方はどなたですか。」しもべは答えた。「あの方が私の主人です。」そこで、リベカはバールを手にとって、身をおおった。

24:66 しもべは、自分がしてきたことを残らずイサクに話した。

24:67 イサクは、その母サラの天幕にリベカを連れて行き、リベカを迎えて妻とし、彼女を愛した。イサクは、母の亡き後、慰めを得た。

「食べたり飲んだり」や休みは肉体の命を維持するために必要です。しかしこのしもべが神様の使命を優先したことは大いに教えられます。

リベカからも教えられます。20節にあるように、桶でらくだ10頭分の水を運び、坂道を往復するのは大変ですが、自らそれをしました。また今は主の導きとあれば、前を向いて進もうとします。主に従う人の証しによって、人が決心するという力強い出来事です。こうありたいものです。

また彼女がらくだから降りたのは礼をつくす行為です。新しい環境で自分を「生かそう、認めてもらおう」というよりも、まず謙遜であることは大切です。

イサクも（当然アブラハムも）神のみわざを尊重し、そしておそらく安心して受け入れました。しもべであっても誰であっても、そこに神の証しがあるなら、神様があがめるゆえに従うべきです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



25:1 アブラハムは、再び妻を迎えた。その名はケトラといった。

25:2 彼女はアブラハムに、ジムラン、ヨクシャン、メダン、ミディアン、イシュバク、シュアハを産んだ。

25:3 ヨクシャンはシェバとデダンを生んだ。デダンの子孫は、アッシュル人とレトシム人とレウミム人であった。

25:4 ミディアンの子は、エファ、エフェル、ハノク、アビダ、エルダアで、これらはみな、ケトラの子であった。

25:5 アブラハムは自分の全財産をイサクに与えた。

25:6 しかし、側女たちの子には贈り物を与え、自分が生きている間に、彼らを東の方、東方の国に行かせて、自分の子イサクから遠ざけた。

25:7 以上がアブラハムの生きた年月で、百七十五年であった。

25:8 アブラハムは幸せな晩年を過ごし、年老いて満ち足り、息絶えて死んだ。そして自分の民に加えられた。

25:9 その息子、イサクとイシュマエルは、アブラハムを、マムレに面するマクペラの洞穴に葬った。これは、ヒッタイト人ツォハルの子エフロン¹の畑地にある。

25:10 アブラハムがヒッタイト人たちから買ったあの畑地である。アブラハムと彼の妻サラはそこに葬られた。

25:11 アブラハムの死後、神は彼の子イサクを祝福された。イサクはベエル・ラハイ・ロイの近くに住んだ。

25:12 これは、サラの女奴隷、エジプト人ハ

ガルがアブラハムに産んだ、アブラハムの子イシュマエルの歴史である。

25:13 イシュマエルの子は、生まれた順に名を挙げると、イシュマエルの長子ネバヨテ、それからケダル、アデベエル、ミブサム、

25:14 ミシュマ、ドマ、マサ、

25:15 ハダド、テマ、エトル、ナフィシュ、ケデマである。

25:16 これがイシュマエルの子孫である。これらは、集落と宿営ごとにつけられた彼らの名で、十二人の、それぞれの氏族の長である。

25:17 以上がイシュマエルの生涯で、その年数は百三十七年であった。彼は息絶えて死に、自分の民に加えられた。

25:18 イシュマエルの子孫は、ハビラからシュルまでの地域に住んだ。シュルはエジプトに接し、アッシュルへの道にあった。彼らは、すべての兄弟たちに敵対していた。

アブラハムは高齢になってから再婚しましたが、それは生活の必要もあったでしょう。しかしそれがイサクの兄弟を増やすことになり、争いの種にもなり得ることでした。地上の生涯というのは、信仰があっても避けられない問題が生じます。

アブラハムは先ず、神の約束すなわち信仰の子イサクを第一としました。高齢になって生まれた子どもたちも可愛かったでしょうが、神の大きいなご計画を忘れませんでした。そのために思慮深く最善を考えて、イサク以外の子どもたちを遠ざけたのです。

そのことは、信仰によって神の子とされた私たちクリスチャンが、イサクのように神様から特別な恵を受け、揺るぎない祝福の約束が与えられていることを表すこととなりました。その特別な祝福はイエス様の十字架によって実現したことです。このようにイエス様の救いとその継承は、すべての人情にまさって、またすべてのつながらにまさって第一とすべきことなのです。

しかし主はアブラハムが他の子供たちにも良いものを与えたように、神様も全ての人々を愛しておられます。神の価値観とは違うこの世の人々とは、正しく一線を引きながらも、しかしこの世にあって人々を愛し、神様の愛を表していきましょう。また家族には信仰の継承を第一としていきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

